

米国における観光資源としてのインフラの活用方策に関する研究 Research on how to Utilize Infrastructure as a Tourism Resource in the United States

○中尾太一¹, 品田康太², 阿部貴弘³
Taichi Nakao¹, Kota Shinada², Takahiro Abe³

Abstract: Currently, infrastructure tourism, which targets infrastructure for tourism is in its infancy. Therefore, the purpose of this study is to clarify how to utilize the infrastructure as a tourism resource for the US infrastructure in order to contribute to Japan's future infrastructure tourism.

1. はじめに

近年、インフラを対象とした観光であるインフラツーリズムが注目を集めている。インフラツーリズムとは、橋、ダム、港等のインフラを地域固有の財産・観光資源として利用し地域活性化につなげる取り組み^[1]である。インフラツーリズムは、普段では経験できない非日常体験を提供するとともに、観光復興や地域活性化などの効果も期待されている。このことから、インフラツーリズムは持続的なまちづくりを形成するため、更なる拡大が望まれている^[2]。国のインフラツーリズムへの取り組みとして、平成25年に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」でインフラツーリズムの概念が位置づけられ、平成28年では「インフラツーリズム PORTAL SITE」が開設されたほか、「明日の日本を支える観光ビジョン」が以後毎年策定されている。平成30年に実施された「観光ビジョン実現プログラム2018」では観光資源の魅力を見出し、地方創生に向けたインフラの活用が掲げられ、また関連省庁や学識者で構成される「インフラツーリズム有識者懇談会」を設置し、これまでの推進政策が整理されたことで平成31年に「インフラツーリズム拡大の手引き—試行版—」が公開された。さらに現在ではインフラツーリズムの拡大に向けて、7つのモデル地区を選定している。

そこで本研究では、日本の今後のインフラツーリズムに資するために米国のインフラを対象として、インフラの観光資源としてのどのような紹介がされているかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

本研究では、創刊年や発行部数において、実績のある観光雑誌として、Table 1に掲げる16冊を抽出し、雑誌の最新刊を分析資料とする。その16冊から観光資源として紹介されているインフラを抽出し、日本人向

けの米国の観光雑誌で紹介されているインフラを研究対象とする。

Table 1. Analytical data

雑誌番号	書名	出版年
1	地球の歩き方 2019~20 アメリカ	2018
2	地球の歩き方 2020~21 アメリカ西海岸	2019
3	地球の歩き方 2020~21 ロスアンゼルス	2020
4	地球の歩き方 2019~20 サンフランシスコとシリコンバレー	2019
5	地球の歩き方 2019~20 シアトル ポートランド	2018
6	地球の歩き方 2021~22 ニューヨーク	2020
7	地球の歩き方 2020~21 ボストン	2020
8	地球の歩き方 2019~20 ワシントン DC	2019
9	地球の歩き方 2019~20 ラスベガス	2019
10	地球の歩き方 2019~20 フロリダ	2018
11	地球の歩き方 2020~21 シカゴ	2020
12	地球の歩き方 2019~2020 アメリカ南部	2019
13	地球の歩き方 2019~20 アメリカの国立公園	2019
14	地球の歩き方 2020~21 ダラス ヒューストン デンバー	2020
15	地球の歩き方 2019~20 アラスカ	2018
16	地球の歩き方 2020~21 アメリカ・ドライブ	2019

※著作編集者はすべて地球の歩き方編集部、発行所はすべて(株)ダイヤモンド・ビッグ社

3. 研究方法

Figure 1に示すプロセスで研究を進める。

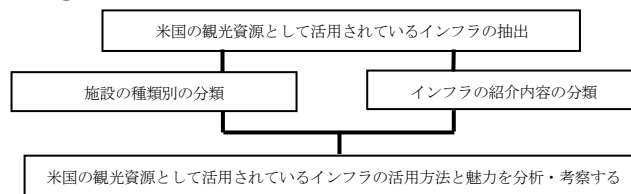


Figure 1. Research process

4. 結果及び考察

4-1. 観光資源として活用されているインフラの抽出と種類の分類

分析資料である観光雑誌16冊から、観光資源として紹介されているインフラを60件抽出した。その結果を種類別に分類したものがTable 2である

Table 2より、米国では「鉄道」や「橋梁」、「道路」といった交通関係のインフラが観光資源として多く紹介されていることがわかった。

Table 2. Classification of extracted infrastructure facilities

抽出したインフラの種類別の分類								合計
鉄道	橋梁	道路	灯台	ダム	運河	港湾	パイプライン	
21	13	13	7	2	2	1	1	60

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・院(前)・まち 3: 日大理工・教員・まち

4-2. インフラの紹介内容の分類

観光資源として活用されているインフラの観光雑誌での紹介内容を Table 3 に示すように分類し、インフラの種類別に Table 4 にまとめた。Table 4 より鉄道では紹介内容の分類項目ごとの件数が最も多い順に「インフラの役割」14/21 件 (66.7%)、「他資源関連付け」11/21 件 (52.4%)、「歴史的価値」10/21 件 (47.6%) 確認された。この結果から、鉄道ではかつて貨物鉄道として生活の基盤となっていたなどの「インフラの役割」が最も多く紹介されていた。次いで駅に施設の歴史について展示されている博物館との関連付けや雄大な自然の観光周遊などが行われている「他資源関連付け」、1900 年代の蒸気機関車など「歴史的価値」が多く紹介されていることがわかった。橋梁では紹介内容の分類項目ごとの件数が最も多い順に「インフラの役割」8/13 件 (61.5%)、「歴史的価値」5/13 件 (38.5%)、「構造的特徴」・「視対象としてのインフラの活用」はともに 4/13 件 (30.8%) 確認された。この結果から、橋梁では「インフラの役割」が最も多く紹介されていることがわかった。また、順に「歴史的価値」、橋を真横に食事を楽しむレストランや展望台等の「視対象としてのインフラの活用」、海の上に浮く浮き橋など「構造的特徴」が多く紹介されており、道路では紹介内容の分類項目ごとの件数が最も多い順に「インフラの役割」6/13 件 (46.2%)、「歴史的価値」・「構造的特徴」がともに 5/13 (38.5%)、「インフラを視点場とした活用」・「撮影地としての活用」がともに 3/13 件 (23.1%) 確認された。この結果から、道路では「インフラの役割」が最も多く紹介されていることがわかった。また「歴史的価値」・「構造的特徴」に次いで、道路沿いに広がる雄大な自然を楽しむといった「インフラを視点場とした活用」、映画やドラマのロケ地となっているなど「撮影地としての活用」が多く紹介されていることがわかった。灯台では紹介内容の分類項目ごとの件数が最も多い順に「インフラを視点場とした活用」7/7 件 (100%)、「他資源関連付け」6/7 件 (85.7%)、「歴史的価値」5/7 件 (71.4%) 確認された。この結果から、灯台では灯台からの絶景など「インフラを視点場とした活用」が最も多く紹介されていることがわかった。また、内部に灯台の歴史などを展示した博物館との関連付けなど「他資源関連付け」に次いで、120 年以上船乗りの道しるべとなっていたなどの「歴史的価値」が多く紹介されていた。米国のインフラ全体では紹介内容の分類項目ごとの件数が最も多い順に「インフラの役割」33/60 件 (55.0%)、「歴史的価値」28/

60 件 (46.7%)、「他資源関連付け」・「インフラを視点場とした活用」がともに 24/60 件 (40.0%)、「構造的特徴」16/60 件 (26.7%) の順に多く確認された。

この結果から、米国では「インフラの役割」が最も多く紹介されており、人々の生活の基盤となっていることが観光資源としての魅力を引き出していると推察する。また順に「歴史的価値」・「他資源関連付け」・「インフラを視点場とした活用」・「構造的特徴」が多く紹介されており、インフラの歴史による魅力や他資源によるインフラの魅力の付加価値、インフラを活用した景観、構造的特徴が観光資源としてのインフラの魅力を引き出していると推察する。

Table 3. Classification of infrastructure introduction contents

番号	分類項目	分類内容例
1	歴史的価値	全米最古の橋、世界初のケーブルカー等
2	構造的特徴	世界で最も美しいといわれているゴシック様式の橋、木造のトラス構造の橋
3	インフラの役割	貨物鉄道が中心である鉄道、120 万 KW の電力を供給しているダム等
4	イベントの開催地としての活用	橋を通行止めにし、マラソン大会を行う、橋梁のライトアップ等
5	撮影地としての活用	映画やドラマのロケ地、絵や写真のモチーフ等
6	非日常体験	昔懐かしい外輪船、アンティークな蒸気機関車等
7	他資源関連付け	地域の名店、世界で唯一の海底ホテル、インフラ施設に関する博物館等
8	インフラを視点場とした活用	道路沿いに広がる雄大な自然を楽しめる、灯台からの絶景等
9	視対象としてのインフラの活用	橋を眺めながら食事を楽しめるレストラン、展望台等
10	施設内見学	施設内を説明しながら回るツアー等

Table 4. Classification of contents introduced in infrastructure tourism magazines

紹介内容の分類	種類別の分類								合計
	鉄道	橋梁	道路	灯台	ダム	運河	港湾	バイパス	
歴史的価値	10	5	5	5	0	2	0	1	28
構造的特徴	4	4	5	0	1	0	1	1	16
インフラの役割	14	8	6	2	2	1	0	0	33
イベントの開催地としての活用	0	1	1	0	0	0	0	0	2
撮影地としての活用	1	2	3	1	0	1	0	0	8
非日常体験	4	1	0	0	0	1	0	0	6
他資源関連付け	11	3	1	6	0	1	1	1	24
インフラを視点場とした活用	8	2	3	7	1	2	1	0	24
視対象としてのインフラの活用	2	4	1	2	1	1	0	0	11
施設内見学	2	0	1	2	1	1	0	0	7

5. まとめ

本研究では、日本の観光雑誌に紹介されている国のインフラを対象として、米国のインフラの取り組み内容を明らかにした。今後、米国と国内のインフラの取り組みの比較から魅力を明らかにしていく。

6. 参考文献

- [1]国土交通省：国土交通白書 29 年度版，pp.161，国土交通省，2017
- [2]阿部貴弘：「地域のインフラを活用した観光の可能性」，都市自治体におけるツーリズム行政—持続可能な地域に向けて—，pp.73-85，2021
- [3]八馬智：「欧州ヨーロッパのドボクを見に行こう」pp. 1-144，2015